

令和6年度 第3回学校運営協議会議事録

日時：令和7年2月15日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、檜本佳子、國末奈緒

【校長・事務局】 高江洲良昌、朝倉淳、藤山恵里、森登紀子、森佳希、山本尚

1. 校長挨拶
2. 委員紹介・事務局職員紹介
3. 議事
 - ①令和6年度学校経営計画及び評価（案）について
 - ②令和7年度学校経営計画及び評価（案）について
 - ③令和7年度学校運営協議会の日程について
 - ④その他

<校長挨拶>

・11月以降の学校の様子を報告。

<事務局からの議事に係る説明>

①令和6年度学校経営計画及び評価（案）について

*校長より、令和6年度学校経営計画及び評価（案）に沿って、具体的な取組み状況及び生徒の様子を報告

委 員：10年前のTOEFLの導入が茨木高校英語教育のゆがみにつながるとして、「茨高の英語プログラム」をつくられたと聞いた。先生どうしのチームワークが素晴らしく、英語科の取組みを地域に向けて発信できたのは非常に大きい。

事務局：イマージョンプログラムで取り組むとともに、ディベートにも段階的に取り組んでいく。

委 員：ディベートについて、他校の取組みはどのようになっているか。

事務局：スーパーサイエンスハイスクール指定校などでは実施されている。

委 員：学校内で内発的に取組みを始めたことが素晴らしい。このような取組みによって生徒が身に付けることができる資質が共通テストの出題内容とリンクしている。教員がチームとして取り組んでいることがよい。

委員：このような取組みを進めていくためには、一定の予算が必要。評価材料として定量的な指標でないと、予算がつかないのでは？

事務局：予算を取りにいくことが必要なときもある。しかし今年度の取組みは、生徒の英語に関する資質向上を図ったもので、あくまでも定性的なもの。しかしこのような取組みができてよかったと思う。

委員：このような取組みが生徒にとってとても楽しいものだと思う。学校として積極的に「楽しさ」を伝えていくことが大事だと思う。

委員：この時代、ビジネスをしていくときの相手は外国である。マーケットの中心も海外である。当然やり取りには英語力が必要になる。生徒に英語力を身に付けさせることは必然であるが、その前に相手に日本語で正しく伝えることができる力も生徒に身に付けさせたい。また英語科だけでなく他教科の授業においても、その視点を忘れないでほしい。

委員：一般的には「エビデンス」が重視される傾向にあるが、測り過ぎの感がある。数値化できるものだけでなく、数値化できないものにも大切なことがあることを忘れないでほしい。

②令和7年度学校経営計画及び評価（案）について

＊校長より、令和7年度学校経営計画及び評価（案）に沿って説明

＊働き方改革を進めていく

委員：時間を有効に使わないといけない。今まで取り組んできたことの整理が必要。

委員：何のためにやっているのか不明なことは、やめていいのではないか。

（海外の高校の特別活動の事例をもとに）10年20年先の自己実現につながるような取組みを進めていってほしい。

③その他

事務局：令和7年学校運営協議会日程案

第1回 6月7日（土）

第2回 10月4日（土）

第3回 2月14日（土）